

# 一般質問



わたなべ たくま  
渡辺 拓馬 議員

国民民主坂出



質問の様子は  
こちら！

## 三菱ケミカルのコークス及び炭素材の事業撤退について

**Q** 事業撤退に伴う荷役従事者や関連事業者の不安払拭のための対応について伺う。

**A** 最新の坂出港における取扱貨物量を試算しますと、国内外から約313万トンの石炭を搬入しており、坂出港全体の搬入量の約4割を占めています。あわせて、国内外へ約225万トンのコークスを搬出しており、坂出港全体の搬出量の約7割を占めていることから、取扱貨物量への影響は非常に大きいものと認識しています。

また、港湾の運営を円滑に行うために、当該事業所敷地を含む周辺を、臨港地区に指定していることから、港湾を利用する企業の立地が望ましいと考えています。

一方で、当該施設は民間事業者が所有しており、設備の撤去後の対応については、当該事業所の経営判断に基づき跡地の活用が図られるものと考えています。

当該事業所の動向を注視しつつ、番の州地区については、香川県が埋立事業を行い、企業を誘致し、工業団地を形成してきた経緯もあることから、香川県と連携して取り組んでいきたいと思っております。

(技監)

## 坂出港の発展について

**Q** 坂出ニューポートプランの推進について市の見解を伺う。

**A** 昨年7月、坂出ニューポートプランに思い描いた坂出港の将来像を実現可能な未来とするため、坂出港振興協会とともに、四国地方整備局、香川県の後援を得て、「坂出港の未来をみんなで考えるシンポジウム」を開催しました。当会において、約90名の港湾関係者や市民等にご参加いただく中で、坂出港の発展・地域活性化に向けた意欲ある地元企業・団体等との連携が不可欠であることを実感し、引き続き、公民一体となった機運の醸成に、国・県などの関係機関と連携しながら取り組んでいきたいと考えています。

令和8年度においては、当プランの具現化に向けた港湾計画の改定作業として、交通量調査や土地利用の検討などを進めていきます。改定内容については坂出港独自の強みを最大限生かすとともに、坂出港を取り巻く状況は「層敵しいもの」となっていることから、改定時期については、令和9年度を目途として取り組んでいきます。

(技監)



さんがわ よしえ  
寒川 佳枝 議員

公明党議員会



質問の様子は  
こちら！

## 絵本のまちさかいで推進事業について

**Q** サードブック、通称ほんこプロジェクトの内容について伺う。

**A** 本市の全ての子供たちが読書を通じて豊かな心と未来への力を育むため、「絵本のまちさかいで推進事業」の内容を拡充し、これまでのブックスタート、セカンドブックに加え、令和8年度より5歳児に本をプレゼントする「サードブック」に取り組み、図鑑や自然科学などを含めた様々なジャンルからなる15種類の本のうち1冊を選んでいただくこととしています。

そして、ブックスタート、セカンドブックは絵本の受け渡し場所を乳幼児健診会場としていますが、サードブックでは、図書館に置いていく多くの分野の本に子供たちが出会うことで、知的好奇心をさらに高めてほしいという思いから、本の受け渡し場所を図書館としています。図書館が「本」と「子」の出会う場所となるように、通称「ほん」と「こ」プロジェクトとしました。

子供たちが、自分の「好き」を見つけ、興味を持ったことについて調べたりチャレンジしたり、図書館を二つのきっかけとして、将来にわたる豊かな学びにつながればと期待しています。

(教育部長)

## 防災について

**Q** 安全・安心な避難所運営のための女性防災リーダーの育成について本市の取組を伺う。

**A** 本市では、東日本大震災の際の避難所生活において、女性の避難者が身体的、精神的に抱えた悩みや苦勞を知り、危機感を持ったことから、性差によるニーズの違いによる理解不足や避難先での安全確保等の課題に対応するため、平成26年に女性職員有志による坂出市防災女性チームを結成し、防災を日常に取り入れることをテーマに、様々な防災イベントの企画や防災広報を行うとともに、女性の視点から妊産婦や子供連れ避難者への対応策を盛り込んだ避難所運営マニュアルを作成するなど、積極的に活動を行っています。また、地域や企業防災については、坂出市消防団女性分団チームコスモスの消防団員が中心となり、広報や訓練指導など、活発な活動を行っています。

さかいで防災おとめ隊とチームコスモスが協力し、今後も引き続き活動を行うっていく中で、女性や子育て世帯の防災ニーズを吸収しながら、職員だけでなく、避難所運営に必要な地域の女性防災リーダーの育成にも努めていきます。

(市長)